

発刊にあたって

岩手県は北海道に次ぐ広大な面積を有し、八幡平や早池峰山、三陸海岸に代表される豊かで優れた自然環境を有する一方、北上高地を中心に入間の営みとの調和の中で形成されてきた牧野、原野、低木二次林などの二次的自然環境が広く分布しています。

こうした多様な自然環境に多くの野生動植物が生息・生育しており、特に、早池峰山や五葉山には岩手県にのみ生育する固有の植物も見られます。野生動植物は生態系の重要な構成要素であり、県民の生活基盤である自然環境の維持のために大切な役割を果たし、私たちの生活に潤いを与えてくれます。これらの野生動植物を県民共有の財産として次の世代に引き継いでいくことは、私たちの責務です。

また、2022年にカナダ・モントリオールで開催された生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）では、2010年に採択された愛知目標の後継となる、2030年までの世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択され、日本においても、昆明・モントリオール生物多様性枠組の達成に向け、必要な事項を定めた「生物多様性国家戦略2023-2030」が閣議決定されるなど、生物多様性保全の重要性は国内外において、さらに高まっています。

私達の住む岩手においても、産業構造や環境の変化、盗採などによって、絶滅のおそれのある野生動植物の増加が明らかになってきていることから、「いわて県民計画（2019～2028）」に基づき、希少野生動植物の生息・生育環境を保全し、生物多様性の確保を図っていくこととしています。

本書は、本県の希少な野生生物の保護対策のための基礎資料とすることを目的として、県が2014年に発行した「いわてレッドデータブック（2014年版）」に掲載された種について、新規検討種の追加やランクの見直しを行い、「いわてレッドデータブック（2025年版）」として取りまとめたものです。本書により、多くの県民や関係者の皆様が岩手の自然に対する認識を深め、岩手県の自然環境が将来にわたり保全していくことを願っています。

結びに、本書の作成にあたり中心になって進めていただいた「いわてレッドデータブック改訂検討協議会」及び「同専門部会」の皆様をはじめ、御協力いただいた関係各位に厚く御礼を申し上げまして、発刊のあいさつといたします。



2025年3月

岩手県知事 達増 拓也